

「蒲郡北駅前広場の辻」
(元町)

明治21年、これまで田畑であったこの地に東海道線が開通し、現蒲郡北駅前には商店や民家がたちまち立ち並びました。そして、今年は東海道線が開通して120年目の節目の年になります。

当時は自動車が少なく、駅前の広場は、昭和の初めまで人力車の寄せ場になっていました(後にタクシーに代わる)。日清・日露・太平洋戦争時には、出征兵士の送迎の場に使われ、太平洋戦争後は蒲郡ホテル滞在のGHQ米軍兵士や織物工場への集団就職者の出入り、夏は海水浴客などで賑わいました。このころに正面の駅前本町通り入口へ歓迎アーケードが設けられ、その少し西側には駅前マーケットもありました。

昭和42年、地下道および地下街や駅前広場の完成などの大変革や、白い時計塔の完成、楠木の植樹によって、すっかり近代的な街に変身しました。

そして今また、鉄道の高架が完成し(平成17年)、駅舎がリニューアルされました。今年の3月には南駅前広場も完成し、観光都市・蒲郡の玄関口にふさわしい姿になっています。

この絵は、JRの高架になったプラットホームからの俯瞰もおもしろいのですが、下から北のビルを見上げる角度で時計塔と楠木を配して描きました。



現在の景色

目次 Contents

蒲郡の安全が危ない!	3
平成21年度保育園入園のご案内	4-5
がん 予防と検診	6
蒲郡まつり Part1 (中央フェスタ)	7
MYスクール・図書館だより	8
まちの達人・読む水族館	9
遊びにおいてよ児童館へ	10
健康カレンダー	11
市民相談	12
いちおし逸品	13
お知らせ	14-25
クイズまちがいさがし・編集後記	26
蒲郡まつり Part2 (納涼花火大会)	27
こどもミュージアム	28
広報企画展	28



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「葛は屑にてあらず、国栖にて候」

大きな葉っぱと太くて毛むくじゃらの蔓で空き地の辺り一面を覆い尽くし、電柱の支線に絡まってよじ登っているクズは、丈夫で頑固な厄介物と思われがちです。その一方、強力な繁殖力を生かし、砂漠の初期緑化にも使われていました。

ところがその花姿は驚くほど印象的で美しいものです。マメ科植物特有の蝶形花が集まったもので、ぶどうの房をひっくり返したような形をしています。濃い赤紫と中央の黄色の強いコントラスト、その上には未開の花が、薄紫の穂のように立ち上っています。この花を見るたび、なぜかウルトラマンシリーズに出てきた怪獣を連想させられるのは、美しさの奥に潜む毒々しさのせいでしょうか。

正直、空き地のクズと和菓子の葛餅などで使われる上品なイメージの葛粉が同じ物とは想像しにくいものです。葛の根を掘った経験のある方は少ないと思いますが、自然薯に比べてもはるかに大きく、大人の腕ぐらいから100kgを超える背丈の大きさのものまであります。あの繁殖力から察すると納得ですが…。ちなみに漢方の風邪薬、葛根は同じ葛の根を晒さずに刻んで乾燥させた物です。

クズの名は、日本書紀や万葉集に今の奈良県吉野郡吉野川上流の住民を国栖と呼んでおり、つる草の根からでん粉を取り、都に売り歩いた事からクズと呼ばれるようになったという説もあります。

